

## 保健所管内の婦人の貧血傾向について (特に血液検査の立場から)

富山保健所

岸岡 保 奥野三枝子 古城 典子  
旭谷 義雄 大館 哲二

近年、循環器疾患の予防対策の一環として働く婦人層の貧血傾向についても、重要視されている。昭和51年度事業として管内各地区で成人病検診が行なわれた。血圧や心電図、眼底検査などの主要検査に付随して行なった貧血等の検査の内全血比重、血色素量、ヘマトクリット値の結果についてひろいあげて検討をこころみた。

**調査方法：**調査対象は富山市では、蛸川、西田地方、奥田の3ヵ所。大沢野町では大久保、猪谷、下夕、大沢野の4ヵ所、大山町では小見、大庄、福沢の3ヵ所、合計10ヵ所に在住する主婦約350名について行なった。

**検査方法：**血液は肘静脈血を用い、全血比重は硫酸銅法、血色素量はシアンメトヘモグロビン法、ヘマトクリット値は高速遠心器による毛細管法を用いた。実施時期は昭和51年8月～11月にかけて行なったものである。

### 結果及び考察

全血比重について(図1)：全般的にみると1.046～1.059の範囲内にあり、平均値は表5に示すとおりで、富山大山町の1.053大沢野町の1.052と地域による違いはみられない。年齢別にみると富山市大山町の30～40代が1.052、50代が1.053大沢野町30～40代が1.051で50代が1.052であり、50代が3地区ともやや高い傾向にあった。

図1 地区別全血比重

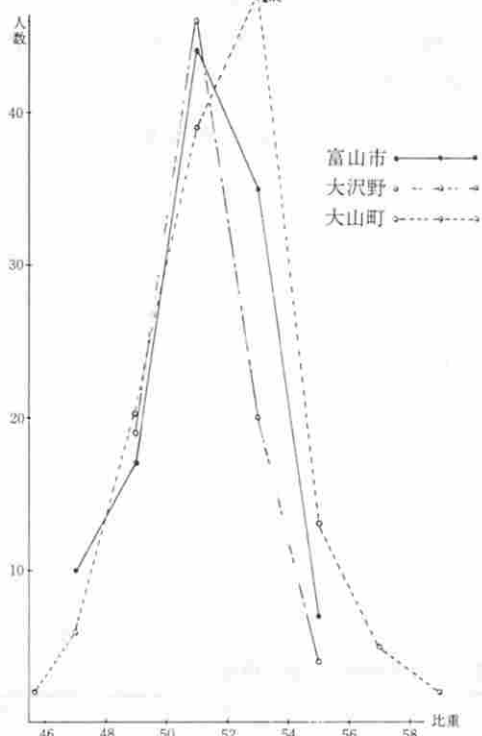
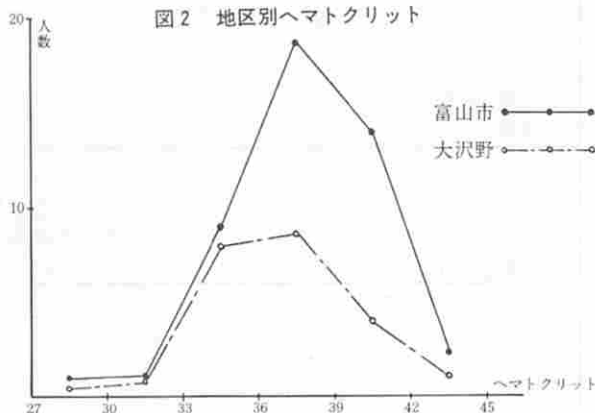


図2 地区別ヘマトクリット



ヘマトクリット値について(図2)：大山町では実施しなかったので、富山市、大沢野町の7ヵ所について検討したものである。主として32~46%の範囲に分布するが、40代の数人が30%以下の低い値を示した。年齢別には特別な傾向はみられなかった。

血色素値について(図3、表1)：7.4g/dl~16.0g/dlと広範囲に渡っているが大半は10g/dl~15.6g/dlの間に含まれる。平均値は富山市で12.8g/dl、大沢野町12.6g/dl、大山町12.5g/dlと地域的にバラツキが見られたが検定をこころみた結果、何れも有意の差は認められなかった。年齢別にみたところ30

~40代の年齢層に比べ50代は高い傾向が見られたのでt検定により各地域毎に年齢層間の比較を試みた結果P<0.05で3地域共有意の差が認められた。原、須永等の報告の中にも年齢50代に比べ30~40代層が血液検査の値が低いと報告されているが、今回当保健所管内における結果も同様な傾向にある事を示唆している。その原因はさらに詳細な調査に待たねばならないが、50代に入ると閉経期も過ぎ家事労働の軽減なども1因と考えられる。

大沢野地区の血色素値について(図4)：大沢野地区の年齢別分布を図4に示したが50才代において二峰性の分布が見られた。この原因を調べるために、これをさらに部落毎に分けてみると、大久保地区では10~14g/dlの範囲にあり、猪谷地区は13~15g/dl、大沢野町では10~16g/dlの範囲にあり、平均値では大久保が最も低く12.0g/dl、次いで大沢野町12.6g/dlで猪谷13.5g/dlと高く、地区間に差がみられた。統計的には大久保と猪谷の間に有意の差(P<0.05)が認められたが、大久保と大沢野では認められなかった。原因については今後の疫学的調査で究明したい。猪谷地区は公衆衛生活動の歴史が古く特に、食生活に関する知識の普及、浸透が著しく生活様式の水準が高い。又大沢野地区はCd汚染地域としてタイタイ病患者発生をみてい

図3 地区別血色素

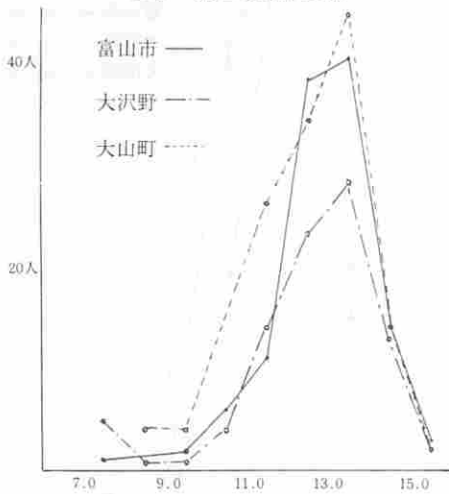


表1 年齢別地区別貧血検査

		全血比重			血色素(g/dl)			Ht値(%)		
		30代	40代	50代	30代	40代	50代	30代	40代	50代
富山市	平均	1.052	1.052	1.053	12.7	12.7	13.2	38	38	39
	S D	2.42	2.42	1.88	1.18	1.51	0.86	2.91	3.72	2.17
	分散	5.86	5.02	3.54	1.40	2.28	0.74	8.47	13.87	4.73
	個数	37	54	25	37	54	25	37	54	25
大沢野町	平均	1.051	1.051	1.052	12.5	12.2	12.9	38	36	37
	S D	2.03	2.30	2.10	1.45	1.67	1.41	1.91	4.39	4.05
	分散	4.13	5.27	4.39	2.11	2.79	1.99	3.64	19.24	16.42
	個数	21	32	45	20	29	44	15	22	25
大山町	平均	1.052	1.052	1.053	12.5	12.2				
	S D	2.14	3.16	1.87	1.64	1.72	0.44			
	分散	4.59	10	3.48	2.69	2.97	0.20			
	個数	40	46	49	40	46	49			

図4 大沢野町年齢別血色素量

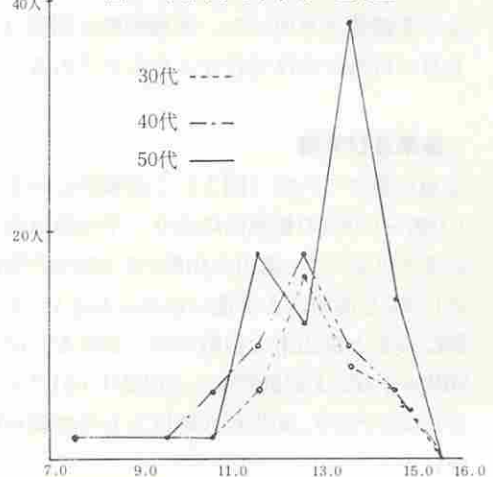


表2 地区別貧血検査48年と51年の比較

地区名	血 色 素				全 血 比 重			
	12.0 g/dl以上		12.0 g/dl以下		1.052 以上		1.051 以下	
	48年	51年	48	51	48	51	48	51
蛭 川	18.0 (48.6)	30 (93.8)	19.0 (51.4)	2 (6.2)	23 (62.2)	21 (65.6)	14 (37.8)	11 (34.5)
大 久 保	27 (50.0)	103 (75.7)	27 (50.0)	33 (24.3)	20 (37.0)	83 (61.0)	36 (63.0)	53 (39.0)
大 沢 野	40 (57.1)	51 (80.1)	30 (42.9)	12 (19.9)	46 (65.7)	34 (54.0)	24 (34.3)	29 (46.0)
船 舩	28 (48.3)	18 (48.5)	30 (51.7)	19 (51.4)	29 (50.0)	25 (67.6)	29 (50.0)	12 (37.4)
下 夕	15 (57.7)	52 (83.9)	11 (42.3)	10 (16.1)	14 (53.8)	32 (51.6)	12 (46.2)	30 (48.4)
大 山	18 (47.4)	30 (66.7)	20 (52.6)	15 (33.3)	15 (39.4)	31 (68.9)	23 (60.1)	14 (31.1)

( )は%

る土地であることも考慮しなければならない。この地域では汚染の時期や汚染期間等の点から、患者やイタイタイ病要観察者の年齢は殆んど50才以上の高年齢者であり、また一般住民の尿蛋白や尿糖の出現率も50才以上では急激に増加している。

昭和48年と昭和51年の比較：昭和48年に当保健所管内で行なった貧血検査の結果を今回の結果と比較した。富山市の蛭川、大沢野町の下夕、船舩、大山町の5ヵ所が前回の調査地区に該当したが、血色素の12.0 g/dlを正常下限とした場合、正常者が蛭川地区で前回の46.8%が今回は93.8%に増加、大久保地区が50%が81%にと、何れも48年に比べて51年には増加してきている。この経年変化について $\chi^2$ 検定を試みた結果(表2)蛭川、大久保、大沢野、下夕地区に有意の差が認められ船舩、大山町では認められなかった。昭和48年から、

51年にかけてかなりの栄養改善が行なわれたものと思われる。

まとめ：今回対象地区となった10ヵ所では全般に殆んど貧血傾向はあまり認められないが30~40才及び地区的には、大山地区に血色素量が12.0 g/dlに未たないもののがかなり存在すると思われるので、その原因と対策については今後の課題となろう。

#### 文 献

- 注(1) 須永寛：農村婦人の貧血と 2.3の問題点  
日本公衛誌 第18巻 第9号
- (2) 原妙子他：婦人の貧血とその生活環境調査(第2報) 日本公衛誌 17 637 1970
- (3) 城石和子他：医学と生物 第85巻 第6号  
1972 イタイタイ病の発生住民の年齢別尿所見